

## 角膜提供者家族から

### No. 1

拝啓

先日は、眼の移植を受けられた方からのお手紙をいただき、ありがとうございました。

お手紙を読ませていただくと、母の眼がお二人の方のお役に少しでも立ち、その方々とともに今も生き続けていると分かり、嬉しく思いました。

母は病を患うまでは本当に元気で、自分で車を運転し大阪や名古屋、信州の方に出かけて美しい景色を見たり、美味しい食べ物を食べたりすることが大好きでした。とても感激屋で、運転中でもきれいなアルプスの山なみが目に入れば、ついよそ見をして「わア」と叫ぶほどでした。

そんな、美しいものを見るのが大好きだった母の眼が、今もどこかで何かを見ていると思うと、不思議な気持ちです。同時に、生前からアイバンク・ジンバンク等に登録し、アジアやアフリカへの支援も積極的に行い、ボランティア精神が旺盛だった母を誇りに思います。私たち家族は、そんな母の気持ちを尊重したままであり、お二人の方に感謝のお手紙をいただくのには本当に恐縮してしまいます。私たちこそ、母のように、もっと人のお役に立てるような生き方をしなければ、と改めて思いました。

お手紙、本当にありがとうございました。

お二人の方には、くれぐれもお身体大切に、一日でも早くご回復されますよう、心よりお祈り申し上げますことをお伝え下さい。

暑さ厳しい折、協会の皆様もご自愛下さい。

敬具